

今こそ、ベトナム! 国際体験みらい塾 体験記

ベトナムの交通事情から経済を垣間見る！！

・ベトナムってどんな国？？

ベトナム社会主義共和国とは、人口 917000000 人（2013 年）、国土面積 346410 km²。首都はハノイ、公用語はベトナム語であり通貨はドン（1 ドン＝170 円前後）。国土は南北に長く、北は中国、西はラオス、南西はカンボジアと国境を接する。ベトナムコーヒーやフォー（ライスヌードル）、アオザイ（民族衣装）などがある。よく日本と比較する際に、日本の 3.40 年前をみていると言われる。

・ベトナムの交通事情

さて、ベトナムの交通機関分担率を見ると、バイクは 90%以上（2002 年 JICA 調査）であり、市民のほぼ全員がバイクを利用していることがわかります。車も走っていることには走っていますが政府や会社のロゴが入っている車が多く、車を所有している人はかなり少ない状況です。また、ガソリンもそこまで安いわけではないため、自転車に乗っている人も何人か見かけた。日本の交通事情は自動車を使用している人が多く、バイクに乗っている人はあまり見かけない。ベトナムの交通事情を実際に見ても、やはりバイクの交通量はすごかった。圧倒的に車の交通量は少なく、また車の数が少ないがゆえにバイクのマナーが悪く移動のバスの中ではバスのクラクションがよく鳴っていた。ベトナムの交通ルールとして、右側通行、車やバイクなどの車両の種類ごとに通行しやすい車線が決まっている。また日本人がびっくりするルールとして歩行者優先ではありません。事実上大型車優先となっています。またクラクションも注意喚起のためのものではなく、「自分がここにいる」と言う存在アピールのものとして使われている。

・日本との比較

日本では、家族で車を 2 台持つこと（会社への出勤で 1 台、買い物用に 1 台で計 2 台 etc.）は当たり前と言っても過言ではない。しかし、ベトナムでは車を持っている人は富裕層に属する人であり、バイクもベトナムでは高価なものであり貧困層の人達はバイクすら持つことができない。ベトナムで自動車を買うとなると、1 台約 400 万円で購入ことになる。これは日本の約 2 倍である。そうすると、自動車を買うことができる人は限られてしまう。日本が 1965 年ごろに家庭に揃っていた理想とされた 3C の品物の中に自動車が入っている。まさしく昔の日本をみているようだ。

・まとめ

交通事情からベトナム経済を見ると、交通マナー、経済格差など問題はありますが自動車の普及率は上がると予測する。それは、今後経済格差は拡大するが、中間層が富裕層に徐々にになっていきバイクから自動車に乗り換える人が増えると考えられるからである。また、ベトナムには多くの日本の企業が進出しており、自動車分野でもホンダ、スズキ等数多くの企業が進出している。ベトナムでの経済発展が日本の経済を回復に導く可能性もあるかもしれない。自国だけで経済を考えるのではなく、他国、世界を視野に入れて考えるためのグローバルな視点が今後日本で暮らすとしても必要になっていくのではないかと考える。



図1 日本語を話せる、はアドバンテージ

私はベトナムに進出したイオングループに着眼点をおき日本とベトナムの違いを紹介したいと思います。ベトナムのイオンでは生鮮食品売り場では、食品がそのまま置かれていました。イオン内は生臭さ食品のにおいが漂っておりとても臭かったです。一方日本ではすべてパックに包まれており衛生面はとてもよいと考えられます。このことを考えると現地の人の食に対する安全意識がまだまだ低いことがわかります。この現状を見て私は日本の様に整備されていない所にビジネスの可能性を見ることができました。ベトナムはまだ発展途中的だからこそそのビジネスチャンスがたくさん眠っている夢のある国なんだということがわかりました。

感想：

今回の研修でベトナムに行ったことで感じたことはたくさんありました。現地の人々との交流は言葉で困ったり衛生面でできないような体験をすることができて、本当に自分にとってプラスになる刺激をうけました。実は海外に行くのは初めてで初めてのことに挑戦することは怖かったんですが、今回挑戦してほんとによかったです。皆さんも新しいことに挑戦していい経験も悪い経験もしてもらいたいです。実際に行動しなければ何も起こらないので、ぜひ皆さんもチャレンジしてもらいたいと考えます。



ベトナムと日本を比べてみて～イオン編～

ベトナムでのショッピング

・ベトナムの物価

ベトナムの通貨単位はベトナムドン（Dong=VND）で、通常はドンと呼ばれる。2015/08/14 時点、1 円 は、178.38 ベトナムドン紙幣は大体 16 種類である。

・ベトナムの平均年収

ベトナムの平均的な年収は約 30 万であり、日本に比べてかなり少ない。そのため日本に比べてかなり物価が安い。ベトナムにおいての一日の食費は約 59,000 ドン（335 円）～87,000 ドン（480 円）であり、食事に関しては屋台で購入したり材料を近くのスーパーで購入したりと様々である。一日の食事に関しては平日休日ともに特に変わらない。なお、ベトナムの1か月の生活費は約 2,945,000 ドン～3,805,000 ドン（1 万 6400 円～2 万 1100 円）である。しかし現在ではベトナムの人口は増加に向かっており、世帯月収が5万円以上の家庭が約 50 万世帯となっている。



・ベトナムでの買い物

ベトナムイオン ビンズン店での客単価は約 750 円から 800 円といわれ、これは日本の約半分だと考えられる。ベトナムにおいてイオンは時間を消費する施設だと考えられ、店内では買い物をする人や映画など娯楽を求めて来店する客など、目的はさまざまである。現在ベトナムでは経済成長により、今後イオンのような店の需要が高まると考えられている。なお、ベトナムイオンビンズン店では日系企業にも関わらず、日本人は 9 名しか働いていない。その理由は日本人はコストが高いため、現地の人間を増やすようにしている。日本人とベトナム人のコミュニケーションとしては日本語を話せる現地の社員に通訳を頼む、または英語などで行っている。

・ベトナムの仕事の形態

ベトナムでは基本的に 8 時間労働で、休日に仕事を行う際には給料が二倍になる。そのため、企業は休日出勤をしないよう働めている。ベトナムでは女性のほうが真面目だと言われており、95%が共働きである。日本のように育児、産休の制度は取り入れている。

参考資料

Grateful Days Inc. <http://www.gdays.jp/ja/?p=7036>
Travel Latte <https://latte.la/travel/place/vietnam/currency>
東大生企業家のブログ <http://masahiro02.com/archives/167>



ベトナムと日本の言語関係

・英語なのに通じない！？

ベトナムでも英語は多数の人に広く学ばれているが、いざ現地で英語を使いコミュニケーションをとろうとしても通じないかもしれません。その理由として、ベトナムがもともとフランスの植民地であったため同じ単語でも読み方が違うと考えられます。

私が行った対策：

伝わらなかった単語に関しては、単語のスペルを伝える、違う表現をするなどであった。基本的にはスペルを伝えれば通じるので、話すのが苦手な人は筆記で単語を書くなどをすれば、簡単な意思疎通はできると思われる。

・日本語を話せる、はアドバンテージ

現在、ベトナムでは英語に次いで日本語が多く学ばれている。何故なら、日本語を話せるベトナム人は、日本語を話せないベトナム人より給料が倍になるからである。日経企業が進出している現状、現地において日本人と現地の間を取り持つことのできる人材は重宝されるためである。そのため、ベトナムでは現在、世界共通語の英語に次いで日本語の教育が盛んである。また、ベトナム人は勤勉であるため、日中仕事を終え、その後に語学塾に通うという生活を、多い人だと週3～4回行っている社会人も珍しくない。

しかし、ベトナム人は勤勉ではあるが、勤労ではないため、離職率が高い。



・これからのベトナムは日本にとってのチャンス！

現在、ベトナムでは日本語教育が熱い、と述べたが、まだまだ十分な教育設備や体制が整っていないのが現状である。それは教育を受けるということがある程度裕福であるという前提が必要なのと、教育設備が十分に存在しないためである。また、日本語の教員も少ない。そのため、これから発展していくベトナムに様々な日系企業が進出してくることが予想されることを考えれば、日本語教育という分野も自ずと必要となってくるだろう。

しかし、文化があまりにも違うため教育以前で様々な問題があることも予想される。



図2 これからのベトナムは日本にとってのチャンス！



・ベトナムの就職事情？

ベトナムの日本企業の就職率の現状はとても厳しく就職率が低いのが現状になっている。大学卒業しても日本企業に就職できるだけではなく、就職しても仕事内容がきつく、すぐやめてしまう。就職率と離職率がどちらも大きいことがわかる。

・ベトナムの男女の就職率？

ベトナムは日本と比較して男女の就職率が逆である、主に女性が仕事をして、男性はのんびりする人が多いのがベトナムの現状であり、会社の幹部にも女性が選ばれているケースは今のベトナムでは常識だそうです。

・ベトナムの人にはないもの？

ベトナムの人は、ホウレンソウがない人が多いそうです、同じ会社の上司であったり、同僚を始め情報の伝達がないことにより、仕事のミスが多くなり、仕事がスムーズに進まないことが多くある。片づけができないベトナムの人が多いのが今の国の状況であり、（てらこや）では生徒に物を大切にすることや使ったものを片づけることを意識させている。

・日本企業を訪問してみて

ベトナムで日本企業のイオンさんを訪問しました。なぜベトナムにイオンを構えたのか？ベトナムには時間があっても遊ぶ場所がないのが現状であり、ほしいものがそう店（デパート）が少ないベトナムに目をつけたそうです。

日本とベトナムの将来について（寺子屋）